

壊さない判断。
そこから始まる、

営繕論

墓じまいからアップサイクルまで

捨てる前に、壊す前に。「価値」を問い直す建築の思考

2026

3/6 (金)

● 参加無料

19:00~20:30

● 定員50名(先着順)

講師

内田 祥士 (建築家・東洋大学名誉教授)

会場

中央公民館 第1ホール (市民交流センター3階)

申込み方法

2月17日(火)9時から受付開始。※定員に達し次第、受付終了



専用フォームから <https://logoform.jp/from/6LWm/1393938>



04-2968-6885 へ電話

さやま市民大学事務局(狭山元気プラザ内)※受付時間:平日9時から16時30分



スマートフォンから
簡単申込み

■ 講師プロフィール

内田 祥士 (建築家・東洋大学名誉教授)

著書: 東照宮の近代・営繕論 他

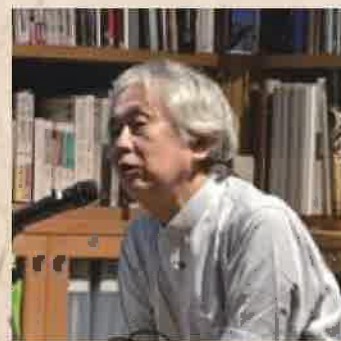
作品: 妙壽寺庫裡 内田祥士 (習作舎)

同寺正隆廟

宮前の家 他

神長官守矢資料館 藤森照信+内田祥士

実験工房棟(改修) 久米設計+内田祥士



■ 講座内容 講師からのコメント

墓じまい 先祖代々の墓から永代供養墓へ

戦後、核家族化が進む中、自らを初代に据えて東京に新しい墓を設けた人が相当数ありました。しかし、少子化傾向が顕著化するに従い、新しい墓を設けても、その永続性に不安を感じる人が増え、墓に対する考え方も大きく変わりました。右の写真にある永代供養墓は、当初、そのような方々のため寺が建立したものです。

講座では、墓じまいや今日の永代供養墓の意味を考えます。



アップサイクル 廉価な量産型机椅子を高級家具へ

右の写真は70年も前に寿商店が製品化した誰もが知る机椅子一体型の量産品、座ったことのない方はいらっしゃるくらい、どこにでもあった椅子から作ったダイニングチェアです。MOCTIONのホームページの「くまの輪 コラム」にも掲載されたのでご存知の方もいらっしゃると思います。

講座では廉価な量産品から高級家具へと至る試行錯誤の過程や量産品としての成立過程を含めて、お話します。



リノベーション 倉庫となった研究室棟を実験工房棟へ

右の写真の吹き抜けは、2006年、東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科の実験工房棟として竣工した建物ですが、新築ではありません。既存建物の改修によって実現した空間です。改修前の建物は、同学朝霞キャンパスの研究棟(先生方の研究室)として1970年代初頭に建設されました。

講座では営繕の可能性と現実という視点からその後の展開を含めてお話します。

